



議会だより

なよろ



増刊号

2017.7.1 発行

平成29年4月17、18日実施

議会報告会報告集



写真(左)は
ノースタウンふれあい会館会場(A班)



写真(右)は
智恵文多目的研修センター会場(B班)

も
く
じ

議会報告会を終えて・議会報告会実施概要	2
班別実施状況	3
各会場からいただいたご意見	4 ~ 5
市民要望に対する市長の回答	6 ~ 11
アンケート調査の結果について	12

議会報告会を終えて



名寄市議会議長 黒井 徹

4月17日、18日に市内6会場で開催した議会報告会に、多くの市民の皆さまにご参加いただき、誠にありがとうございました。

議会基本条例を制定後、市民の皆さまに議会活動を報告し、情報の共有を図ることと市民の意見を聴取して議会活動に活かすことを目的に議会報告会を実施し、今回で9回目になります。昨年度から、参加していただいた皆さまとの意見交換を主として進行し、今回も道路整備・除排雪など市民生活に密接にかかわる意見、要望や、なよろ温泉サンピラーの改修、市内の高校のあり方など、名寄市の行政課題や将来に関する案件などについて、また、議会に対しても、行政に対する監視機能が働いているのか、常任委員会等の行政視察のあり方についてなど、多くのご意見をいただきました。いただいたご意見は、議員全員で共有し、今後の議会活動に活かしてまいります。

今年度から、少しでも多くの市民の皆さまと対話ができるよう、議会報告会を年2回開催いたします。参加していただいた皆さまの、議会の活動や行政に対する生の声を聴かせていただき、議会活動に反映させ、市民の皆さまとともに住みよい名寄市をめざして議員一丸となって努力してまいります。

現任期も折り返しとなり、議会基本条例に基づく活動の検証など議会改革を進め、市民に信頼される議会を目指して「市民に分かりやすく、開かれた議会運営に努めてまいります」。

平成29年度 議会報告会実施概要

名寄市議会では、議会基本条例に基づき4月17、18日の2日間、議会報告会を開催しました。議員が2班に分かれ、6会場において開催した報告会には、79人の市民の皆さまに参加していただきました。議会側から、昨年の報告会以降に開催された定例会や臨時会の審議状況、各委員会の行政視察についてなど議会活動を報告し、その後は、参加していただいた市民の皆さんとテーマを設けずに意見交換を行いました。質問、意見、要望は建設的なものを中心に46項目となりました。あらためて参加していただいた皆さまに心からお礼を申し上げます。

市民の皆さんからいただいた質問、意見については、5月10日に正副議長と議会運営委員会正副委員長で内容を精査し、市長に見解を求めるべきと判断した7項目について同月15日に正副議長、議会運営委員長から市長に文書で手渡しました。

本号においては主な事項をお知らせいたしますが、より細かい報告書の閲覧を希望される方は議会ホームページまたは議会事務局までお申し出ください。

平成29年度 議会報告会 班別実施状況

報告会は班責任者のあいさつ、出席議員の自己紹介にはじまり、配布した資料に基づき、議会活動の報告（行政視察、議会改革の進捗状況等を含む）等を行い、その後、意見交換に入りました。昨年同様、参加者のご協力を得てアンケート調査を行い、質問項目の他に議会に対してのご意見等をいただきました。

《A班》班長 奥村英俊（議会運営委員会副委員長・経済建設常任委員会委員長）
 黒井徹（議長）
 東千春（総務文教常任委員会委員長）
 大石健二（市民福祉常任委員会副委員長）
 山崎真由美（総務文教常任委員会委員）
 野田三樹也（総務文教常任委員会委員）
 塩田昌彦（市民福祉常任委員会委員・議会報特別委員会副委員長）
 浜田康子（市民福祉常任委員会委員）
 佐久間誠（経済建設常任委員会委員）

担当会場 4月17日 名寄東小学校会場 参加者 16人
 4月18日 ノースタウンふれあい会館会場 参加者 13人
 4月18日 ふうれん地域交流センター会場 参加者 7人



（名寄東小学校会場）



（ノースタウンふれあい会館会場）



（ふうれん地域交流センター会場）

《B班》班長 山田典幸（議会運営委員会委員長・総務文教常任委員会委員）
 佐藤靖（副議長・総務文教常任委員会委員）
 熊谷吉正（市民福祉常任委員会委員長）
 高野美枝子（総務文教常任委員会副委員長）
 川口京二（経済建設常任委員会副委員長）
 佐々木寿（市民福祉常任委員会委員・経済建設常任委員会委員）
 高橋伸典（市民福祉常任委員会委員）
 川村幸栄（経済建設常任委員会委員・議会報特別委員会委員長）
 東川孝義（経済建設常任委員会委員）

担当会場 4月17日 名寄市総合福祉センター会場 参加者 12人
 4月17日 智恵文多目的研修センター会場 参加者 15人
 4月18日 名寄市民文化センター会場 参加者 16人



（名寄市総合福祉センター会場）



（智恵文多目的研修センター会場）



（名寄市民文化センター会場）

各会場からいただいたご意見 (市長へ見解を求めた意見を除く)

【人口減少の対策について】

問 全国で人口減少が課題となっているが、人口の減少は商店街の元気がなくなることにつながる。名寄市の地域経済の活性化のための方策は。

答 地方にとって人口減少は商業や医療、福祉など様々な分野に影響がある。働く場の確保、新規就農者への支援などにも取り組んでいるが、目に見えるかたちにはなっていないかもしれない。厳しいという認識を持ちながらも、名寄で子どもを産み、名寄で子育てしたいと思えるような街にするため、行政も議会も活動していかなければならない。

【除排雪について】

問 道路除雪は舗装面が見えるほど、きれいに除雪しているが、路面の凍結により、春先には道路が凸凹になる。凍上して盛り上がった道路面が削られ、春先にはアスファルトの欠片が散乱している。

答 道路に雪を残すと、融雪期は雪が溶けて、安全な車両通行に影響がある。アスファルトの凍上は、簡易舗装等の道路状況も含め行政に伝えたい。

【総合計画について】

問 総合計画(第2次)のダイジェスト版が配布されたが、名寄市がこの10年でどのように変わっていくのかが見えてこない。市民に分かりやすく伝える周知の方法を研究してほしい。

答 総合計画(第2次)については、議会でも10年後の姿が見えないという議論をした。常任委員会や議会で計画の進行を確認しながら、市民の皆さんに伝えていけるよう情報公開に努めたい。

【総合計画について】

問 総合計画(第1次)について、10年間の達成度など、議会がどのようにかわり、評価したのか。また、総合計画(第2次)にどのように反映されたのか。

答 総合計画(第1次)については、3つの常任委員会で点検しながら進めてきた。総合計画(第2次)についても、議会の議決事項である基本構想と基本計画について2日間の集中審議を行った。今後の10年間を見据え、議員が理解を深め、チェック機能を働かせる。



JOC ジュニアオリンピックカップ2017全日本ジュニア選手権
全国から中高生のトップクラスが一堂に会し、競い合う

【名寄市で開催される大規模大会について】

問 JOC ジュニアオリンピックスキー大会など、全国から選手が集まる大会が名寄市で開催されているが、参加選手の中には名寄市外の宿泊施設から大会会場まで移動している選手もいるようだ。名寄市内の宿泊施設を利用してもらうことはできないのか。

答 大規模大会等は旅行会社が各学校等参加者へ直接宿泊等のあっせんをしている。特に、スキー大会はワックスルーム等の設備など参加選手のニーズもある。大規模大会の開催を継続することで、反省点を次回に活かし、地域経済の活性化につなげることができる。議会としても応援していきたい。

議会活動に関するご意見

【議会での質問について】

問 議会での議員の質問は市民も関心がある。市立病院や大学など大きな問題ばかり取り上げて、公営住宅の問題など市民の生活にかかわる小さな問題は取り上げられていないと感じる。市民の声を聴いてほしい。

問 インターネット中継などを見ていると、執行者側の答弁に対しての議員の掘り下げ不足が目につく。現場を見て調査し、しっかりと質問してほしい。

答 議員は、大きな問題、小さな問題などと質問を区別してはいない。それぞれの議員が市民の声を聴き、所管部署に確認し、調査研究をして質問している。今後も、質問内容については、しっかりと状況を調査し、課題を明確にし、実りあるものとなるように取り組みたい。

【議会報告会の開催について】

問 議会報告会の参加者が少ないが開催方法を工夫すべきでは。

問 市民が参加しやすい開催時期にしてほしい。

問 意見交換はテーマを絞るとよいのではないか。議会報告会というネーミングも参加者が少ない要因ではないか。

答 今年度から、4月と10月の年2回議会報告会を開催することとした。今回は報告会の開催案内が遅いなど、準備不足であった。今後開催する議会報告会は、多くの市民の方が参加でき、それぞれの意見をうかがうことのできる場にしたいと考えている。開催案内などの周知方法も検討したい。若年層や各団体単位での議会報告会など、議会が出向くような取り組みも考えたい。

【常任委員会等の行政視察について】

問 行政視察については、視察の内容が事業に反映されたりするので、今後も必要と考える。

問 行政視察は、効果がなく意味がないのではないか。視察の報告も議会だよりに少し掲載されるだけである。視察の実績を市民にアピールするべきでは。

問 行政視察は良いことだと思う。議会報告会は参加者が少ないが、視察での調査研究事項に関係する市民や団体に向けた視察報告会を開催するとよいのでは。議員が視察で得た知識を市民に還元し、有益なものとしてほしい。

答 常任委員会等の行政視察は、各常任委員会で決めた調査研究テーマについての先進地等を視察している。先進地を見るだけではなく、事業に取り組んでいる担当者から、事業の経過や現状と課題などについて直接話を聞くことは、今後の委員会活動や個々の議員活動に活かすことができ、有意義なことである。視察報告のあり方については、議会改革調査特別委員会でも検討しており、市民の皆さんに視察の成果を報告し、市政に反映できるかたちを考えていきたい。



平成28年9月経済建設常任委員会と町内会役員による「名寄市の除排雪に関する意見交換会」を開催

市民要望に対する市長の回答

1

道路整備の要望について

道路整備については、「まちづくり懇談会の場で道路インフラ整備について質問し、総合計画（第2次）で議論し進めたい」という回答であったが、計画の中には見えてこないし、町内会に対して問いかけも説明もない。「道路等の整備計画を市民に分かるように提示してほしい。」「雪解け後の道路の陥没はひどい状況である。」「簡易舗装が穴だらけである。」「など具体的な道路の状況も含めて各会場で意見・要望がありました。」

名寄市の道路整備についての考え方と整備計画について、また市民への周知・提示の方法について市長の見解を求めます。

【回答】

総合計画（第2次）の道路整備につきましては、総合計画（第1次）においての道路整備事業に引き続き未整備道路の改良舗装工事を進め、「舗装率の向上」、「雨水排水性能の向上」を図り、安全安心な道路環境整備を図るよう計画しております。

また、防災・減災対策や社会資本の老朽化対策・長寿命化対策など、新たな事業につきましても合わせて進めていく計画としています。

2

なよろ温泉サンピラーについて

道路整備については多くの事業費を必要とするため、国からの交付金や補助金を活用しながら事業を進めておりますが、国からの予算においては翌年度配分においても見通しが難しいことから、道路整備計画の周知につきましては、新規路線の採択決定次第、随時周知して参りたいと思います。

また、交付金や補助金などの配分の減額に対しては、市の財政状況を勘案しながら事業量の確保につとめて参りたいと思います。

なよろ温泉サンピラーについては改修の話以降市民のみなさんの関心も非常に高く、「まちづくり懇談会の中でサンピラー温浴施設について質問したが、検討するということだけで、改修されるわけでもないようだが、どのようにしているのか。」「老朽化し、改修をするということだが、思うように進まない。将来この施設が改善される方向に向かっているのか。スポーツ振興ということでスキー場、ジャンプ台、ノルディックの競技場などもある。将来の構想含めてどのように考えているのか。」「改修の2億円は市民には見えてこない。2億円の積算根拠、収益が3割あがるというのがどのような根拠なのか？ 独自で専任の役員を置かないとダメではない

か。「将来的なビジョン、将来的な見通しを持ってやっていく方向になるのか心配。」「サンピラー温泉ではカナダの輸入豚を主力として営業していた。以前は、名寄の豚肉を使っていた時期もあった。地産地消について考えてもらいたい。」「台湾の話が出たり、スポーツ振興にも目を向けるなど、方向性が見えてこないのが心配」「外国人の方々に地元の温泉ホテルを紹介し宿泊してもらいたいと思うが、現状のサンピラー温泉ではためらってしまう。温泉ホテルはこの自治体にもある、特徴がないとお客さんは来ないのではないか。経営や集客力など改善する部分があるのではないか。」などの意見がありました。

以上のような様々な意見があった事をお伝えし、改めてなよろ温泉サンピラーの今後について市長の見解を求めます。

【回答】

平成26年度に名寄市日進地区再整備基本構想を策定。短期での取組、整備の方針とした、なよろ温泉サンピラー、体育センターピヤシリ・フォレスト及び駐車場のハードについて、平成27年度に「名寄ピヤシリスキー場地区に係る温浴施設等の検討支援業務」を実施し、市民アンケートを含めた調査業務を行いました。

調査結果では温泉、サウナ、休憩所などに対する要望が多く、それらを踏まえた庁内等検討委員会による協議を行い、新館温浴施設改修を行うこととし総合計画（第2次）の前期計画事業に掲載しました。

現在、名寄ピヤシリスキー場の指定管理者である名寄振興公社と経済部での経営安定プロジェクト会議、また庁内関係

者等での研修施設改修プロジェクト会議の中で、なよろ温泉サンピラー、レストラン、スキーロッジ等、スキー場地区に係る施設の方向性について検討を進めております。



施設改修の見通しが不透明と市民からも不安が



浴室やサウナなどの改修を希望する声も多く聞かれる

3

JR宗谷本線の問題について

宗谷本線活性化推進協議会でJR北海道と協議に入るということだが、市民の方から『幹事会では論点整理をしてどうしていくか、存続していくときにJRの立場、自治体の立場、利用者の立場で出合って論点の整理をして可能なか不可能なのかの議論を深めていくのが協議会・幹事会の役割。市長の発言で「落としどころが見えない」というような発言があったが、落としどころという言葉は何を意図するのか?』という発言がありました。

JR宗谷本線の問題の今後についてと言葉の意図について市長の見解を求めます。

【回答】

JR宗谷本線の問題について、議会の皆様方にも存続に向けてご尽力いただいておりますことにまずはお礼申し上げます。本年3月30日に開催した、宗谷本線活性化推進協議会と国・道を交えた意見交換会の場において、担当課長レベルで構成する幹事会で、地域として検討しなければならぬことを、JR北海道も交えて議論を開始すべきとの方向性が決定されました。このことを踏まえ、4月14日と5月15日の2回幹事会を開催してきております。幹事会においては、利用促進策について活発な意見交換が行われており、5月31日に行われる協議会総会において、中間報告が行われ、幹事会における議論の方向性を全体で確認いただきながら進めることとなっております。

議論の根幹は、宗谷本線を残すための議論であり、沿線自治体として取り組めることを積極的に話し合い、JR北海道と協調すべきところを確認し、結果、経営問題として資金面で厳しいところは、鉄道網維持の大きな課題として、国や道に対し支援を要望していかなければならないと考えております。

また、利用促進を図るための方策として、鉄道利用者の状況を把握するためのアンケート調査の実施を決定しており、沿線自治体が一斉に調査し、統計を基により効果的な利用促進策を研究していくこととなっております。

「落しどころが見えない」との発言についてですが、宗谷

本線活性化推進協議会幹事会での議論が始まったばかりで、今後どのような着地点となるのかわからないという意味で「落しどころが見えない」と表現させていただきました。

4

名寄市内の高校のあり方について

名寄市内の高校の状況は「名寄産業高校も生徒数が減っている。今年度は名寄高校も定員を割っている。他の市町村ではいろいろな施策を実施して学生の確保を図っている。」「このままだと統合されるのは目に見えている。地域から高校がなくなるということ、地域の子どもたちが希望する学校に行けないとこういうことは親にとっても地域にとっても負担。このまちの高校教育をどうするかということを考えていかな」と大変なことになると思う。」という意見がありました。

名寄市の高校のあり方として進学校と職業校の2本立てを維持するという方針だと理解していますが、改めて市長の見解を求めます。

【回答】

北海道教育委員会では、少子化により中学卒業生数が年々減少している状況から、学校の統廃合や間口削減等、「公立高等学校配置計画」に基づき進められています。

名寄市内高等学校の平成29年度入学者数は、名寄高等学校が106人（40人以上の定員割れにより1間口減の3間口で欠員14人）で、名寄産業高等学校が96人（4間口で欠員64人）という状況です。また、上川北学区の中学卒業生数は、平成

29年3月が552人、平成32年3月が468人で、ここ数年でさらに大幅な減少となります。

このようなことから、北海道教育委員会では、名寄市内の高等学校において平成32年度以降に1間口を減らす意向を示し、「平成29年度公立高等学校配置計画」に盛り込むことを検討しています。

これまで、名寄市では、高等学校の間口や学科の再編等について検討するため、平成27年2月に、「名寄市内高等学校在り方検討会議」を設置し協議をしてきました。平成28年3月には、北海道教育委員会教育長に対し、間口の維持や高等学校への支援等についての要望書を提出し、その後、北海道教育委員会担当職員と具体的な協議も行ってきました。

しかしながら、高等学校の欠員状況や中学卒業生の減少などにより、現行間口の維持は非常に難しい状況にあります。今後も、子どもたちの希望に沿った学ぶ環境をつくることや地域の人材育成・確保、活気があり魅力ある学校をつくるために、学科や学校の再編、名寄市としての支援策等、名寄市内高等学校在り方検討会議や関係する皆様と連携しながら対応していきます。

5

智恵文沼について

智恵文沼の状況について、「土砂等流入で浅くなって環境が悪くなっている。また、ひびな実態調査では生息を1匹も確認できなかった。という治水の面と観光の面、両方で大きな問題がある。」と対応を求める意見がありました。

智恵文沼整備に関する市長の見解を求めます。

【回答】

智恵文沼は、旧川に分類され国土交通省北海道開発局の管理となっています。これまでも名寄河川事務所、また、道道排水の関係では北海道へ智恵文沼の環境整備等の要望及び協議を行っているところですが、今回のご意見も踏まえ、引き続き協議を実施して参ります。

また、トイレ・休憩所等観光関連施設においては、今後も市として適切に管理を行ってまいります。



昭和の初めまでは北側に大きく蛇行する天塩川の流路の一部だった智恵文沼



弧を描くように水辺が広がる智恵文沼。あずまややトイレなども整備されている

6

特別養護老人ホーム・介護職員の補充について

介護職員の不足と特別養護老人ホームの定員割れの報道があり、各会場から「少し正職員が採用され安心できる」など

の意見も含めて職員の補充の状況について質問がありました。人材確保の状況と特別養護老人ホームの定員の状況について市長の見解を求めます。

【回答】

特別養護老人ホームの介護職員の人材確保状況は本年4月1日に新たに7名を採用し、業務に就きながらの研修（OJT）を行っているところです。なお、5月に2名を採用することとなっており現時点で合計9人（有資格者7名、無資格2名）を確保できたところです。

しかしながら、職員の中には、体調不良や育児等により病休や勤務の負担軽減を行っているケースもあり、日勤のパート勤務の介護職員や介護の周辺業務を支援する介護補助職員により介護職員の不足の一部を補っておりますが、今後も引き続き様々な手法により職員募集を行ってまいります。

定員の充足状況については、清峰園において閉鎖しております「あじさいユニット」を7月から再開し、順次利用者を受け入れ7月末には満床とする見込みとなっております。

一方、しらかばハイツについては、長期入所者が昨年12月から4月までの間、13人が退所する状況となり、あわせて想定外に退職者が相次いだことにより勤務体制を組むことが困難となり、新規に6名の入所を受け入れてきたものの5月25日現在で長期利用者63名、短期利用者9名の合計72人となっているところです。

現在、施設運営や勤務体制の見直しなどにより長期入所者を早期に受け入れられるよう進めてまいります。



入所者が安心できる職員体制が望まれる



特別養護老人ホームの閉鎖ユニットの再開を待つ静かな談話室

7

図書館について

大学図書館の整備に関しては良い評価がある一方で市立図書館の建替えについては、率直に「大学の図書館と一般の図書館と内容が違うのか。二つの図書館が必要なのか?」という意見も含めて、両施設の整合性などの質問がありました。名寄市としての考え方について市長の見解を求めます。

【回答】

公共図書館と大学図書館では、目的や役割が違ってきます。公共図書館は、図書館法に基づいて自治体が設置し、教育委員会が管理する教育機関であり、誰もが無料で利用でき、そのサービスは市民の暮らしや仕事に深くかかわっているた

め、あらゆる資料や情報を収集提供し市民の知る自由を保障する機関です。そのことから、読書をはじめとする情報サービスの提供をする役割があり、広範囲な資料を収集する必要があります。

大学図書館は、公共図書館における図書館法、学校図書館における学校図書館法のような単独の法令はなく、拘束力をもつものとしては文部科学省令による「大学設置基準」があり、それにより設置されています。大学図書館は、研究と教育を支援する目的のために、特定領域に絞ったより専門的な資料を収集する必要があります。また大学図書館の機能として、社会・地域貢献という面で開かれた存在であることも求められています。

名寄市は、公共図書館と大学図書館がありますので、それぞれのすみ分けが重要であり、それぞれの目的に沿った運営方針の下、図書の収集をする必要があります。また、公共図書館と大学図書館が相互貸借をはじめ連携強化に努め、市民が利用しやすい図書館をつくり、利用促進を図ることも大切です。

このようなことから、市民を対象とした公共図書館と学生や教員などの大学関係者が主に利用する大学図書館の両施設は、それぞれの分野で必要性があり、老朽化している公共図書館の改築について引き続き検討を進めてまいります。

市立名寄図書館について

昭和45年8月に、郷土資料室とプラネタリウム館を併設した複合施設として開館しました。平成6年には、蔵書冊数の増加に伴う構造上の問題から閲覧室を2階から1階に移動し、その後も老朽化に伴う修繕等を随時行い建物を維



昭和45年に建設された市立名寄図書館。老朽化と狭隘な利用スペースに課題が



平成29年4月に名寄市立大学新図書館が誕生。市民への利用サービスも開始された

持してきています。しかし、未耐震施設で老朽化、狭隘など、利用者が快適に利用できる状況にはありません。図書館の蔵書は、乳幼児から高齢者が利用できるよう広範なジャンルの図書があります。また、利用者のリクエストに因應するため、他の公共図書館との相互貸借による連携も行っています。

大学図書館について
平成18年度の4大化開学以降懸案となっていました。市民をはじめ、市議会の皆様のご理解を頂き、総合計画（第1次）後期計画に登載し、昨年度に建物が完成し、本年4月に開館しています。また5月1日からは、市民への利用サービスを開始しています。

大学図書館の蔵書は、学生や教員の利用が中心になるため、保健・医療・福祉・教育などの分野の専門書が中心となっています。

平成 29 年度 議会報告会 アンケート結果

議会報告会でご回答いただきましたアンケートの集約結果は次のとおりです。また、ご回答いただいた市民の皆様は 70 人で、回答率は 88.6%となっています。 () の数字は回答者数です。

問 1 あなたの年齢は

20代(1人) 30代(3人) 40代(4人) 50代(4人) 60代(16人)
70代以上(41人) 未回答(1人)

問 2 あなたの性別は?

男(62人) 女(7人) 未回答(1人)

問 3 これまでに議会報告会に何回出席したことがありますか?

1回(15人) 2回(10人) 3回(18人) 4回(7人) 5回以上(13人)
初めて(4人) 未回答(3人)

問 4 議会報告会の内容についてはどうでしたか?

(全体的に) よかった(22人) ふつう(35人) よくなかった(4人) 未回答(9人)
(報告内容は) わかりやすかった(21人) ふつう(34人) わかりづらかった(7人)
未回答(8人)

(意見交換の内容は) よかった(21人) ふつう(32人) よくなかった(3人)
未回答(14人)

今後改善すべきことがあればお書きください。

- ・テーマが絞られているとよい。(4件) ・意見交換を主としてほしい。
- ・議員の会派色はいらぬ。 ・もっと議会としての考え方や意見が示されてもよかった。
- ・議会の報告は掻い摘んでの説明で短くてよい。 ・時間をもう少し長くしてほしい。
- ・議会報告会に集まりやすい(和やかな雰囲気)方法を計画したほうがよい。(2件)
- ・人が集まらないような報告会ならやらない方がいいと思う。 ・要望会のようになっている。
- ・議会報告会の時期等を考えてほしい。
- ・前もって資料を町内会長宅へ届ける事で活発な意見がでると思う。

問 5 議会だよりはお読みになりますか?

毎回読んでいる(45人) たまに読んでいる(22人) 読まない(3人)

問 6 議会ホームページはご覧になりますか?

よく見ている(6人) たまに見ている(27人) まったく見ない(31人)
未回答(6人)

問 7 議会中継(同時中継、録画中継を含め)はご覧になったことがありますか?

よく見ている(9人) たまに見ている(20人) まったく見ない(33人)
未回答(8人)

問 8 議会を傍聴したことがありますか?

傍聴したことがある(37人)(平均2.9回程度) 傍聴したことがない(31人)
未回答(2人)

問 9 議会に対してご意見があれば、自由にお書きください。

- ・議会報告会のような場を沢山つくってほしい。
- ・名寄市、名寄の議会に他市町村からどの程度の視察があるのか知りたい。
- ・図書館は「勉強する場」よりも、多くの人々が本に親しみ人生を豊かにする経験を得られる為の場として考えてほしい。
- ・「学ぶとどう良いことがあるのか」、「政治に関わる事がなぜ必要なのか」、「地元の国産の食材を選ぶことがなぜ大事なのか」という意識を持ってもらう為の取り組みをしてほしい。
- ・常任委員会の行政視察で参考になる市町村の取り組み(例 富良野市の「除雪ヘルパー制度」)をより深め、市の施策に取り入れてほしい。
- ・議会中継で新しく見えるようになったが、途中でコマーシャルのようなものが出てきて中継が見られなくなる。
- ・アンケートで、議会ホームページや議会中継に関する設問は高齢者には適当ではない。
- ・野球の全道大会を開催するのであれば、雨の後でも使用できるよう議員にも名寄市営球場の現状等を見てほしい。
- ・議会は元気がない感じがあり、市と並んでいる感じがあるので攻めの議会を進めてほしい。